馬見原商店街

熊本県山都町

インバウンド　地域課題対応　若手・女性　生産性向上

ポイント

商店街から移転した町立病院内に「まみはら屋」を設置。医商連携による買い物弱者支援および高齢者の健康づくりを支援。

基本データ

所在地	熊本県上益城郡山都町馬見原
人口	約 1.5 万人（山都町）
電話 /FAX	0967-83-0037 / 0967-83-0038
会員数	38 名
店舗数	38 店舗（小売業 18 店、飲食業 2 店、サービス業 15 店、その他 3 店）
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	高齢者、国内観光客 /60 歳代、50 歳代

商店街概要

九州のほぼ中央に位置し、江戸時代から肥後（熊本市）と日向（延岡市）を結ぶ日向往還の山間の主要な交易地・宿場町として発展、商家を中心に賑わった。

平成 10 年に住民による景観協定を策定し、かつての賑わいをみせた白壁土蔵造りの酒屋や醤油醸造店跡などを土台にした景観整備を進め、それが馬見原商店街のシンボルとなっている。

年間を通じて、商店街と豊かな自然景観、史跡や神社などの歴史文化を体験するウォーキングやパワースポットご利益めぐりなど様々なイベントを開催。高齢者や家族連れなどに定着し商店街活性化に繋がっている。

取組の背景

約 4 割の町民が買い物に不満足

かつて商店街の買い物や観劇などを通じて活発な交流が行われていたが、近年の高齢化や交通事情の変化により、商店街に足を運べない買い物難民が増え、さらにそれによる交流機会の減少から地域コミュニティが崩壊しつつあった。平成 23 年に実施したアンケート調査からは町民の約 4 割が買い物に不便を感じているという結果が明らかとなり、高齢者などの買い物利便性向上による商店街活性化や地域コミュニティの再生が喫緊の課題となっていた。

一方、平成 24 年 11 月、商店街の一角を占めていた地域医療拠点である町立病院が、数百 m 離れた高台に移転。これまで、病院へ通院する地域住民が商店街内で買い物をし、コミュニティの場としての役割を商店街が果たしていたが、病院の移転により人の流れが大きく変わることとなってしまった。

しかし、病院へ通院する地域住民にとっては、病院移転後も、移転前に商店街で買い物ができていたような環境を構築することができないかと考え、商店街への期待が集まっていた。

取組の内容

移転した病院内に“商店街”

ここで、商店街の活性化とあわせて病院利用者や周辺地域住民の買い物の支援・健康づくり、地域コミュニティの再生を図ることを目的に「馬見原買い物支援協議会」（19 店舗で構成）が設立された。

緊喫の課題であった買い物支援対策として、町立病院が移転・開業したのを機に、病院内に協議会が運営する売店「まみはら屋」を出店。商店街に足を運べない高齢者のために、食料品や生活用品などを幅広く提供。特に、高齢の入院患者・通院患者を中心に様々な買い物ニーズに応えられるようサービスを実施していった。売店内では受け渡しを基本としつつ、希望があれば商店街の店舗に直接連絡を入れ、自宅まで配達してもらえる仕組みも構築している。また、売店の陳列棚にない商品があれば、必要に応じて商店街の個店が直接売店に持参する体制も整えている。

協議会運営の病院内売店「まみはら屋」

売店は、病院 1 階玄関隣で売場面積は約 13㎡。商店街など 22 店舗の商品を並べ、協議会のスタッフが店番をしている。

運営コストの多くは人件費と光熱費であるが、採算の取れる範囲で営業を行っており、永続的な運営スキームになっている。

そのほか、町立病院と商店街を往復するジャンボタクシーを運行しており、商店街への来街を促す事業も実施している。

さらに、協議会では健康イベント事業として、ウォーキング教室、講演会およびコンサートを実施。高齢者の健康増進を目的とした健康料理開発事業も行い、山都町の農産物を活かした特産品の開発・販売につなげることができている。

病院内コンサート

ノルディックウォーキング

平成 28 年に発生した熊本地震後も活動を継続しており、450 年以上の歴史ある火伏地蔵祭には、地震により甚大な被害を受けた地域の住民を招待し、他地域と一体となって震災復興に取り組んでいる。

火伏地蔵祭

取組の成果

多くの地域住民の買い物ニーズに応える

町立病院内の売店「まみはら屋」における 1 日の売上高は平均 6 万円程度であり、平均約 100 名が利用している。

主に入院患者や通院患者が利用するケースが多いが、病院に見舞いに訪れた家族も売店で買い物をしている。住民の半数が 65 歳以上の当地域にとって、病院は多くの人が訪れる施設でもあり、「病院に来たついでに買い物もできて便利である」との声が多く聞かれ、地域住民のニーズを満たす結果となっている。また、「まみはら屋」は商店街のアンテナショップとしての位置づけでもあり、品揃えも豊富で地元の特産品も販売しているため、遠方から訪れた人のお土産購入の場としての役割も果たしている。

送迎サービスや、町立病院と連携したノルディックウォーキングや健康料理開発事業も地域住民には好評であり、高齢化地域における地域住民の交通、買い物、コミュニティ、健康問題を解決する地域が一体となった取組になっている。

実施体制

馬見原商店街の個店を中心に「馬見原買い物支援協議会」を立ち上げ、町立病院内の「まみはら屋」を運営。定期的に役員会（毎月 10 日）を行い、現状の把握、改善などの今後の事業展開を見据えた議論が行われている。

また、地元の若者、地域団体、自治体、山都町商工会と連携し年間を通して様々なイベントを開催している。さらに、「馬見原街づくり協議会」による観光客向けの馬見原歴史散策ガイド事業などとも連携し、地域一体となって商店街の魅力を発信している。

キーパーソンからのコメント

山都町商工会
副会長　草部 清也

被災地の皆さんをお祭りに招待

平成 28 年 8 月、450 年以上の歴史ある火伏地蔵祭に熊本地震で甚大な被害を受けた上益城郡益城町・御船町・甲佐町の住民の方々約 60 名を無料招待しました。

伝統ある造り物を見学されたり、桟敷席で祭りの雰囲気と花火大会を体験していただいたことにより、少しでも被災された方々の心の支援に繋がればと思っています。

準備などは大変でしたが、避難生活を続ける被災地の皆様が「威勢がよくて元気が出る。いい気分転換になった」と笑顔を見せられ、こんなに喜ばれるなら今後も復興支援に取り組み、上益城郡との住民交流と発展に繋げていきたいと思いました。

買い物弱者対策支援について

「まみはら屋」をオープンして以来、これまで物品の販売だけではなく、いろいろなイベントを企画し実施してきており、病院を訪れる高齢者の方々には広く知られるようになり、なくてはならない売店となっています。

今後は、より利用客のニーズに合った品物を揃え、商店街の活性化にも繋げていきたいです。